

シンジケートローンの組成とアレンジャーの決定要因について

大阪経済大学 秋吉 史夫

Bank of Canada 南橋 尚明

近年、銀行の巨大化と複合化が進み、複合金融機関がさまざまな金融サービスを提供するようになった。企業金融における先行文献においても、Yasuda (2005, 2007), Santos and Rumble (2006), 小谷(2008), Ferreira and Matos (2012)が示すように、銀行市場、シンジケートローン市場、社債市場、株式市場は密接につながっている。

上記の文献をもとに、本研究では過去の相対市場での銀行取引が、シンジケートローン市場でのローン組成にどのように影響を与えたかを考察する。

分析にあたっては、シンジケートローンが普及した 2000 年代を対象とした。Loan Pricing Corporation の Dealscan データベースにおけるシンジケートローンの諸データと Nikkei NEEDS Financial Quest における日本特有の個別貸出データをマッチングし、過去の取引関係がアレンジャーの決定に与える影響などを研究した。分析の結果、シンジケートローン市場は過去の個別貸出市場での銀行関係に強く影響されていたことが明らかになった。

また、本研究の結果は、銀行と取引先企業の間をシンジケートローンデータからとった海外研究の仮定が多く企業において正しいことも示唆している。